

年 頭 所 感

2012年1月4日
株式会社トクヤマ
社 長 幸後 和壽

100年に一度の金融危機から緩やかな回復を見せていた日本に、1000年に一度の大地震が襲い、東日本の産業は大きな被害を受けた。サプライチェーンの復旧スピードは、予想をはるかに超え、日本の底力を世界に示したが、バンコク近郊の大洪水や、史上空前の円高、ユーロ圏の債務危機などの影響を受け、景気浮揚が儘ならない状況にある。

当社の売上高は、リーマンショック以降、横ばい傾向にあり、営業利益率は低下傾向にある。世界経済の先行き不透明感が強まるなか、トクヤマグループは、内需依存の製品構成から脱却し、グローバル市場で勝ち抜くため、体質転換を一層加速していかねばならない。

「挑戦と変革」をキーワードにした「100周年ビジョン」の第一ステップは、2010年度で区切りをつけ、2011年度は中長期の成長戦略の見直しとステップアップのための助走・準備期間と位置付けた。この間、トクヤマグループの皆さんは、今一度原点に戻り、自分の足元を見つめ直し、飛躍のための自身のミッションを再確認できたことと思う。

また一方で、成長戦略の一環として、『マレーシア第2期多結晶シリコンプラント建設』、『天津徳山塑料設立』、『サファイア単結晶基板実証試験開始』、『山口ロキッドハイドロジェン設立』などを決定した。

さらに、「100周年ビジョン」実現のための課題克服をテーマとした『挑戦と変革プロジェクト』も、第一世代が提言を出し具現化が進んでいる。トクヤマグループ一人ひとりが、自分の持つスキルをフル活用し、後に続いて欲しい。

2012年度から始まる「100周年ビジョン」の第二ステップは、『成長を加速する進化』をキーワードに、マレーシア計画の着実な推進と並行し、国際競争力を有する製品の創出や事業構造改革を是非とも実現したい。

そのためには、新たな「挑戦と変革」の道へ躊躇することなく、自分で一步を踏み出す。険しい道も、自分を信じて、自分で切り拓いていく。トクヤマグループの全員が強い意志を持って、「100周年」を目指して行くことを期したい。

トクヤマのミッションは『ものづくり』。ものづくりの現場では、一瞬の気の緩み、気の迷いが、大きな事故や品質異常に繋がる。安全には十二分な配慮をし、高品質の製品を安定して安価に産み出すため、トクヤマグループ全員が全力で取り組むことを改めて宣言する。

以上